国立極地研究所
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
南極・北極科学館
Polar Science Museum

カラフト犬の供養

第１次南極観測隊に同行し、悪天候のため昭和基地に取り残されながらも１年後に救出されたタロとジロ。ジロは1960年７月に南極で病死し、遺骸は日本に持ち帰られました。タロは1961年５月に日本に帰国し、北海道で余生を過ごしました。

南極観測隊で活躍したカラフト犬たちは、昭和基地に阿弥陀如来像を建てて供養されていました。また大阪の堺市、北海道の稚内市、東京都調布市の深大寺動物霊園でも供養されています。

1959年３月に昭和基地天測点に建てられたカラフト犬慰霊の像は、奈良の薬師寺の阿弥陀如来をモデルに東京芸術大学（当時）の山本豊市教授が制作したものです。

同像は第46次越冬時まで天測点と呼ばれる小高い丘にありましたが、台座が老朽化して倒れていることを発見した渡邉研太郎 越冬隊長が、なくならないように隊長室へ移動させ、保管されていました。そして、歴史的記念物を保存するために、2008年５月、同像を第49次隊で持ち帰ることになり、その際、現地でカラフト犬慰霊祭をとり行うこととなりました。慰霊祭当日の12月22日には、同像を元の場所である天測点に一時的に戻して慰霊祭を実施しました。その後、同像は翌2009年４月上旬、国立極地研究所に到着しました。

同像の国内持ち帰りと共に、像の台座は現地保存する方針とし、第49次隊以降、引き継がれています。

1962年６月９日に深大寺動物霊園で、文部省（現在の文部科学省）が中心となって、南極観測に貢献・活躍したカラフト犬の慰霊祭と納骨が行われました。第１次隊で活躍した22頭の功績をたたえる供養で、文部省が保管していたカラフト犬ジロの遺骨の一部が３ヶ月前に建てられた万霊塔の中におさめられたのです。

慰霊祭には第１次、第２次、第３次観測隊としてタロ・ジロと南極で活動した村山雅美氏や、第２次、第４次、第８次観測隊で犬係もつとめた吉田榮夫氏も参加し、カラフト犬の冥福を祈りました。当時の観測隊にカラフト犬はなくてはならない存在でした。

万霊塔におさめられてから現在まで、大切に保管、供養されています。

【第３次隊の頃　昭和基地にあるカラフト犬慰霊の像（奥）とタロ（左）・ジロ（右）・ミヤ（手前）】

【焼香をする第49次 牛尾収輝 越冬隊長と隊員】